

信州教育改革の旗頭

小林 袈裟春 先生

小林 袈裟春（こばやし けさはる）先生略歴

1922年（大正11）上水内郡中条村大畠に生まれる
1942年（昭和17）長野師範学校本科第一部卒業
東筑摩郡会田村立会田国民学校訓導
1944年（昭和19）兵役従事
1946年（昭和21）上水内郡七二会村立七二会中学校教諭
1950年（昭和25）岡谷市岡谷北部中学校 教諭
1954年（昭和29）飯田市立飯田東中学校 教諭
1957年（昭和32）長野市立西部中学校 教諭
1961年（昭和36）信州大学附属長野中学校 教諭
1965年（昭和40）上水内郡豊野町立豊野西小学校教諭
1968年（昭和43）県教育委員会事務局教学指導課指導主事
1970年（昭和45）松本市立旭町小学校 校長
1973年（昭和48）長野市教育委員会 教育次長
1976年（昭和51）長野市立城山小学校 校長
在職中に県小学校長会長
長野市校長会長
文部大臣教育者表彰
1982年（昭和57）城山小学校長を最後に退職
長野市教育センター所長
1996年（平成8）勲5等 瑞宝章受賞
2012年（平成24）逝去 91歳



小林袈裟春先生の著作より 〈昭和教育の課題を指摘〉

今日までの教育を顧みると、当面の達成目標には教師も親も熱心であるが、人間の生き方や心の問題にはあまり配慮がなされていなかったのも事実である。これからの学校教育で果たさなければならないねらいは、人間性豊かな児童・生徒の育成を目指し、知育・徳育・体育の調和を一層図りながら、その基礎となり基本となる内容を、一人ひとりの児童・生徒にしっかり身につけさせるということになる。（昭和56年7月 長野市教育会誌より）

〈次代に向かう教育の方向を示す〉

現在の学校教育が知識の伝達に偏っている傾向を改め、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かな児童を育成することを願う新教育課程が実施されようとする時、改めて教師の専門性について問い直し、教師でなければできない専門職としての力を発揮して、人間性豊かな児童を育成することに努力しなければならない。

（昭和54年 城山小学校 職員文集より）

〈小林袈裟春先生の業績〉

小林先生は、高度経済成長時代に、成績重視、詰め込み教育の危うさを察知して、心の教育の重要性を説き、昭和教育の進むべき道を我々教師に示す先導役として歩まれました。

県下の小中学校で勤められたほか、従軍後復職され、県教育委員会事務局、市教育委員会事務局勤務など、教育行政にも力を発揮され全県下の小学校教育の牽引役として、次代に向かう教育の方向を示し続けられました。

参考文献 『信濃教育』第1521号（平成25年8月）